2024年度　千葉大本番レベル模試　世界史

採点基準

全3問　80分　100点満点

1 （36点）

採点基準

問1

(1)　　2点

(2)　　2点

(3)（基準の合計4点→2点満点）

1. 〔結成理由①〕ハンザ同盟に対抗するため　　2点
2. 〔結成理由②〕黒死病（ペスト）に対応するため　　2点

問2

(1)　　2点

(2)　　2点

問3

(1)　　2点

(2)　　2点

問4

(1)　　2点

(2)　　2点

(3)　　2点

問5 （基準の合計19点→10点満点）

1. 〔帝国の状況①〕神聖ローマ皇帝はイタリア政策を行っていた　2点
2. 〔帝国の状況②〕（①の目的）教会を政治利用しようとした／イタリアの権益を求めた　1点
   - 「（イタリア半島で）教皇／都市同盟と争った」など①の内容を挙げても可
3. 〔帝国の状況③〕（①の結果）皇帝のドイツ統治が不十分となった　1点
4. 〔帝国の状況④〕（③の結果）（ドイツ国内で）諸侯が自立した／領邦を形成した　2点
5. 〔帝国の状況⑤〕（①の結果）帝国都市（自由都市）が独立勢力となった／力をつけた　1点
6. 〔帝国の状況⑥〕「大空位時代」が到来した　2点

7. 〔帝国の状況⑦〕（⑥に先立って）シュタウフェン朝が断絶した　1 点
8. 〔金印勅書の内容①〕皇帝選出の手続きを整理／明文化した　2 点
9. 〔金印勅書の内容②〕七選帝侯に皇帝の選出権を付与した／追認した　2 点
10. 〔金印勅書の内容③〕七選帝侯に（②以外の）特権（関税徴収権／裁判権）が付与された　1 点
11. 〔金印勅書の影響①〕（金印勅書の発布を経て）諸侯／領邦が（更に）力をつけた　2 点
12. 〔金印勅書の影響②〕神聖ローマ帝国の地方分権化が確定的になった　2 点
    - カール 4 世がこの状況を追認したという文脈でも可

問 6 （基準の合計 9 点→6 点満点）

＊ 教皇党と皇帝党（基準の合計 5 点→3 点満点）

1. 〔教皇党と皇帝党①〕諸都市が教皇党（ゲルフ）と皇帝党（ギベリン）に分かれた　2 点
2. 〔教皇党と皇帝党②〕（①の背景として）神聖ローマ皇帝がイタリア政策を行った　1 点
3. 〔教皇党と皇帝党③〕（主に）都市の大商人が教皇党を形成した　1 点
4. 〔教皇党と皇帝党④〕（主に）農村領主出身の貴族が皇帝党を形成した　1 点

＊ イタリア各地の諸国家（基準の合計 10 点→6 点満点）

5. 〔イタリア北部～中部①〕都市国家／コムーネ（自治都市）が並び立っていた　1 点
6. 〔イタリア北部～中部②〕（①の例）ヴェネツィア／フィレンツェ共和国が存在していた　1 点
    - この他,「ジェノヴァ共和国／ミラノ公国」も可
7. 〔イタリア中部〕教皇領が存在していた　1 点
8. 〔イタリア南部①〕両シチリア王国（ノルマン＝シチリア王国）が成立した　1 点
9. 〔イタリア南部②〕両シチリア王国をルッジェーロ 2 世が開いた 1 点
10. 〔イタリア南部③〕両シチリア王国がアンジュー家支配に降った 1 点
11. 〔イタリア南部④〕「シチリアの晩鐘」が起こった　1 点
12. 〔イタリア南部⑤〕（④の結果）両シチリア王国がナポリ王国とシチリア王国に分裂した　2 点
    - 「アンジュー家がナポリ王国を建てた」も可
13. 〔イタリア南部⑥〕（④の後）シチリア王国をアラゴン家が支配した　1 点

2 （32 点）

採点基準

問 1

A　　2 点

B　　2 点

問 2（基準の合計 7 点→7 点満点）

＊　文書名と著者の名前（基準の合計 2 点→2 点満点）

1. 〔文書名〕九十五カ条の論題　1 点
2. 〔著者の名前〕（マルティン＝）ルター　　1 点

＊　批判の内容とルターの主張（基準の合計 9 点→5 点満点）

3. 〔批判の内容①〕教皇／教会が贖宥状（免罪符）を発行した　　2 点
   - 「贖宥状の購入により罪が赦されると唱えた／購入が善行に当たると主張した」も可
4. 〔批判の内容②〕贖宥状（免罪符）の発行はサン＝ピエトロ大聖堂改修のために行われた　1 点
5. 〔ルターの主張①〕万人司祭主義を唱えた／ローマ教皇／司教の権威を否定した　2 点
6. 〔ルターの主張②〕福音信仰／聖書のみに基づく信仰を説いた　2 点
7. 〔ルターの主張③〕信仰義認説／人は信仰を通してのみ救われると主張した　　2 点

問 3（基準の合計 11 点→7 点満点）

1. 〔典礼問題の内容①〕イエズス会は祖先の祭祀／孔子崇拝／伝統儀礼を認めた　　2 点
   - 「祖先の祭祀」の要素はなくても可
2. 〔典礼問題の内容②〕イエズス会の布教方法を他会派が教皇に訴えた／批判した　1 点
3. 〔典礼問題の内容③〕（他会派の例）ドミニコ会／フランチェスコ会が批判した　1 点
4. 〔典礼問題の結果①〕教皇はイエズス会の布教方法を異端とした 2 点
5. 〔典礼問題の結果②〕康熙帝はイエズス会以外の中国でのキリスト教布教を禁じた　　2 点
6. 〔典礼問題の結果③〕雍正帝が中国でのキリスト教布教を全面禁止した　2 点
7. 〔典礼問題の結果④〕（③の後も）（一部の）宣教師は中国に在留した　　1 点

問 4　　2 点

問 5

(1)　　2 点

(2)　　2 点

問 6

(1)　　2 点

(2)（基準の合計 12 点→6 点満点）

1. 〔フィリピン革命前史①〕ホセ＝リサールが民族意識高揚／独立の思想的旗手となった　2 点
   - 「言論による植民地批判」「小説を通じた人々の啓蒙」など具体的な言及も可
   - ホセ＝リサールが革命を直接的に指導したように受け取れるものは加点しない
2. 〔フィリピン革命前史②〕（①により）民族運動がカトリックを信仰する民衆に広まった　1 点
3. 〔フィリピン革命①〕カティプーナンがフィリピン革命を起こした　1 点
4. 〔フィリピン革命②〕（革命と同時期に）アメリカ＝スペイン（米西）戦争が勃発した　2 点
5. 〔フィリピン革命③〕（②により）アメリカが革命／独立運動／アギナルドを支援した　1 点
6. 〔フィリピン革命④〕フィリピン（マロロス）共和国が樹立された　2 点
7. 〔フィリピン革命⑤〕（④において）アギナルドが大統領となった　1 点
   - アギナルドが独立運動を主導していたことを示せていれば加点
8. 〔フィリピン＝アメリカ戦争①〕アメリカがフィリピンの独立を認めなかった　1 点
9. 〔フィリピン＝アメリカ戦争②〕フィリピンはアメリカの植民地となった　1 点

3 （32 点）

採点基準

問 1　　2 点

問 2

(1)　　2 点

(2)　　2 点

問 3　　2 点

問 4

(1)（基準の合計 4 点→4 点満点）

1. 〔理由①〕戦争により増税した／戦死者が多数発生した 1 点
2. 〔理由②〕（ロシアから）賠償金を得られなかった　　3 点

(2)　　2 点

問 5

(1)（基準の合計 17 点→8 点満点）

＊ 南下政策（基準の合計 4 点→3 点満点）

1. 〔南下政策①〕ロシアは不凍港を求めていた　1 点
   - 不凍港を「一年中凍らない港」としても可
2. 〔南下政策②〕ロシアは地中海への進出を目指していた 1 点
3. 〔南下政策③〕ロシアは南下政策を行なっていた　　2 点
   - 答案全体を通じて「南下政策」という語が用いられていない場合は全体から 2 点減点

＊ クリミア戦争以前の動向（基準の合計 4 点→2 点満点）

4. 〔動向①〕オスマン帝国で民族運動が激化した 1 点
5. 〔動向②〕ロシアはボスフォラス海峡／ダーダネルス海峡の自由通過権獲得を目指した　2 点
6. 〔動向③〕②を一時は獲得したが，ロンドン会議（ロンドン条約）で破棄された 1 点

＊ クリミア戦争の経緯（基準の合計 11 点→6 点満点）

7. 〔経緯①〕ロシアはオスマン帝国／<u>バルカン半島</u>方面への南下を（再度）進めた 2 点
8. 〔経緯②〕（①の背景として）1848 年革命鎮圧により国際社会で優位に立った　1 点
   - 「ヨーロッパの憲兵として活躍した」でも可
9. 〔経緯③〕オスマン帝国がカトリック／フランスに聖地管理権を与えた 1 点
   - 「パレスチナのキリスト教保護においてカトリックが優位となった」でも可

10.〔経緯④〕（③を受けて）ロシアがギリシア正教徒保護を名目に出兵した　2 点
11.〔経緯⑤〕イギリスとフランスが介入した／オスマン帝国に味方した　2 点
- イギリスとフランス，どちらか一方だけの場合は 1 点のみ

12.〔経緯⑥〕サルデーニャ王国がオスマン帝国に味方した　1 点
13.〔経緯⑦〕セヴァストーポリ要塞を巡って激戦が生じた　1 点
14.〔経緯⑧〕ロシアは敗北した　1 点

＊　クリミア戦争の結果（基準の合計 9 点→6 点満点）
15.〔結果①〕（クリミア戦争の結果）パリ条約が結ばれた　2 点
16.〔結果②〕（①によって）黒海の中立化が定められた　2 点
17.〔結果③〕（①によって）ボスフォラス／ダーダネルス海峡の軍艦通行不可が定められた　2 点
18.〔結果④〕（①によって）オスマン帝国の領土保全が定められた　1 点
19.〔結果⑤〕（①によって）ロシアの南下は失敗した　2 点

(2)（基準の合計 13 点→10 点満点）
＊　日露戦争の前史（基準の合計 7 点→4 点満点）
1.　〔経緯①〕ロシアはロシア＝トルコ（露土）戦争／サン＝ステファノ条約で南下が一時成功した　1 点
2.　〔経緯②〕ベルリン会議でロシアの南下は抑えられた　1 点
3.　〔経緯③〕（②を受けて）ロシアは東アジア／極東での南下を狙った　2 点
4.　〔経緯④〕朝鮮を巡って日本と争った　2 点
- 日露戦争の文脈で言及していても可

5.　〔経緯⑤〕（④の例として）三国干渉／義和団戦争後の軍隊駐留を行った　1 点

＊　日露戦争の経緯・結果（基準の合計 4 点→4 点満点）
6.　〔経緯①〕日本はイギリスと日英同盟を結んでいた　1 点
7.　〔経緯②〕日本はアメリカから支援があった　1 点
8.　〔結果①〕日露戦争で日本が勝利した／ロシアが敗北した　1 点
9.　〔結果②〕ポーツマス条約で日本は朝鮮での優位を得た　1 点
- 日露戦争で朝鮮を巡る争いに日本が勝利した内容であれば表現は問わない

＊　第一次世界大戦への道筋（基準の合計 9 点→5 点満点）
10.〔三国協商①〕（日露戦争を経て）ロシアは（再度）バルカン半島への南下を志向した　1 点
11.〔三国協商②〕英露協商が結ばれた　1 点
12.〔三国協商③〕（②により）三国協商が成立した 1 点

13.〔三国協商④〕（②③の背景）ロシアがドイツと対立した　　2 点

14.〔三国同盟①〕（ロシアとの対立背景として）ドイツは 3B 政策を行った　1 点

15.〔三国同盟②〕ドイツは（オーストリア・イタリアとともに）三国同盟を組んでいた　　1 点

16.〔ヨーロッパ情勢〕ヨーロッパ世界が同盟国と協商国に二分された／対立軸が生まれた　　2 点